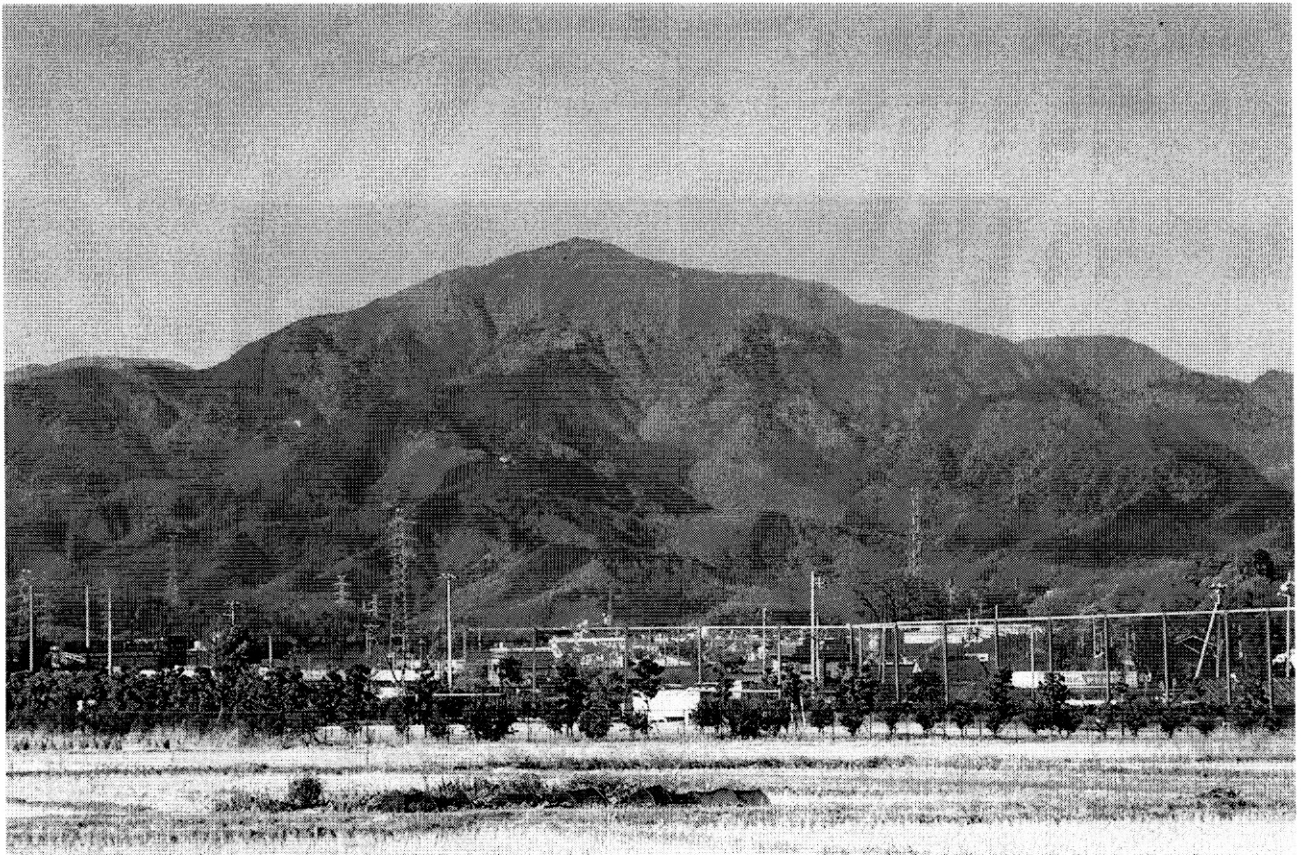


# 成瀬少年野球教室 三十周年記念誌



# 成瀬少年野球教室の歌

## 「強く、高く、清く」

1  
燃える太陽に 向かって走る  
あこがれのユニホーム  
心がおどる  
強く 強く ひたすら強く  
君の姿よ たくましく

2  
汗にまみれて 白球追えば  
きのう泣いた友  
今日はファインプレー  
高く 高く その技高く  
君の姿よ 美しく

3  
手と手を結んで 円陣組めば  
かわすまなざしに  
うなづく友情  
清く 清く その道清く  
君の心よ あたたかく

強く、高く、清く

作詞・作曲 樋口英子

1も  
2あ  
3て

えんたいよう ーに むか っ て ほし る あこ  
せにまみれ ー て ー は ー き ゃう お え ぼ きの  
とてをむす ー ん で えん じん く め げ かお

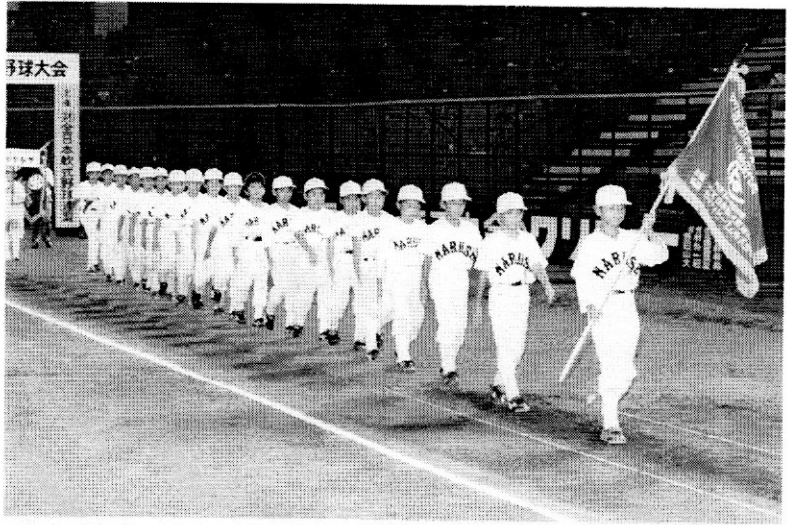
がれの ユニ ホー ム こ こ り が お ど る つ よ  
う な い た と も き ゃう は ー フ ァ イ ン プ レー た か  
す ま な ざ し に う な づ く じ ゃう じ ゃう ま く

く つ よ く ひ た す ら つ よ く ー き ゃう  
く た か く そ の り お ぎ た か く ー き ゃう  
く き ゃう く そ の り お ぎ た か く ー き ゃう

の す が た よ た く ー ま し く  
の す が た よ つ ー く し く  
の こ こ ろ よ あ た ー な か く



作詞作曲  
樋口 英子



第7回全日本学童軟式野球大会 (S62.8.8~12.5)  
堂々の入場行進 (成瀬少年野球教室)

# 成瀬少年野球教室の応援歌

作詞、作曲 伊藤 久美子

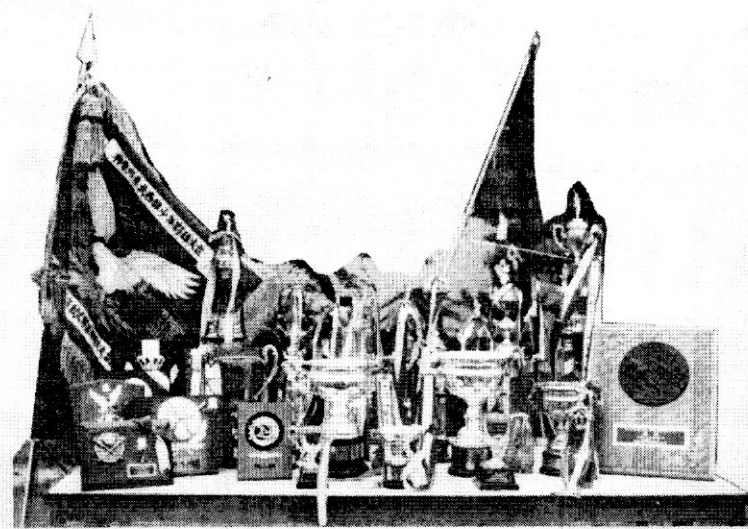
1

汗にまみれて がんばるぞ  
どんな時でも あせらずに  
無心な気持ちで 投げ！ 打て！  
ぼくらの勝利  
かっとなげーっ成瀬！フレフレ成瀬！オウ！！

2

泥にまみれて がんばるぞ  
どんな時でも くじけず  
根性ひとすじ がんばれ  
白球追って  
かっとなげーっ成瀬！フレフレ成瀬！オウ！！

The musical score is presented in three systems. The first system contains the first two lines of the lyrics. The second system contains the next two lines. The third system contains the final line of the lyrics. The score includes a vocal line with lyrics, a piano accompaniment line, and a bass line. Chord symbols (C, F, G) are placed above the vocal line. The lyrics are written in hiragana.



## 監督 あいさつ

「礼儀廉恥 三十年を振り返って」

成瀬少年野球教室監督 石黒 利昌

○はじめに

三十年は、長いように感じますがあつという間のできごとです。昭和四十九年五月に成瀬小学校の野球の好きな子どもたちを集めてスタートしました。はじめは、石がごろごろした水溜りのある狭いグラウンドでした。野球用具もなく、ユニホームも



なく、試合の相手、安全への対策、後援会の組織づくり……どれもこれも心配なことばかりでしたが、今では当時の頃が懐かしく思い出されます。最初の十年は、「泥にまみれて」がむしやりに練習に明け暮れました。

次の十年は、市内大会を勝ち抜き、県大会、関東大会、全国大会などの経験を積むことができました。

二十一年から三十年までは、これまでの勢いで走り続けました。三十年を一区切りとしてこれまでのことを振り返り、今後の糧となるように書き記しておける機会をいただき大変嬉しく感謝します。

### (一) 設立の趣旨

「好きこそもの上手なれ」「習うより、慣れよ」などといえます。野球が好きで、日々練習すれば必ず上達する。……こんなことが設立の趣旨だったと思います。

中学生時代、野球部の先生は大変厳しい方で、仲間は次々に辞めていきましたが、三年生の最後の大会で良い思い出ができ「最後まで諦めずに我慢して続けると何か良いことが起こる。」ことを経験しました。また、学生の頃、始めは、ボールを捕球できなかった他チームの三塁手が、しばらくすると見違えるほど上手に捕球することを見て「練習の仕方しだいでは、上達する。」はずだ……と考えたことです。

就職する前、高校野球の監督は、学校では、学問を教え、放課後は好きな野球を教えられる……そんな生き方（仕事）に憧れを抱いておりました。縁あつて幸運にも「成瀬小学校」に勤務することになり、高校野球とはいきませんが、小学生と野球ができる機会に恵まれました。

二十代の若い頃を振り返りますと、がむしやりに夢中で右も左も分らず、子どもと泥まみれになって野球の練習に打ち込んできました。挨拶ができる、苦しくても我慢する、最後まで頑張る、友達と仲良くする、親を大事にする、物を大切にする、……少年野球を通して子ども達に身につけてほしい願いは、漠然と考えていましたが、……人間教育とか人格を尊重するとか生きる力だとか……こういうことを強く意識し始めたのはつい最近のことです。

## (二) 子ども・・・無限の可能性を秘めた

未来からの訪問者

子どもには、「無限の可能性」があります。生まれて十一年程の子どもたちは、まだまだ経験も少なく、ボールやバットを扱うことにあまり慣れていません。しかし、繰り返し練習すれば、身に付くことが多くあります。この時期に、大切なのは、調整力（器用な身のこなし）次に持久力（長く続ける力）筋力と言われています。ボール投げを一〇回、一〇〇回、一〇〇〇回、（神奈川県学童部の故須田理事長は、審判講習会の参加者に、「面取り千回」と教え、主審をやるには、マスクを取ったり付けたたりすることを一〇〇〇回練習しなさい。と指導していたことを思い出します。）



反復練習をしているとある日突

然できるようになることがあります。例えば、自転車に乗れること・水泳の息つきができること、逆上がりができることなどと同じように考えてよいと思います。「努力した報酬は必ずある。」ことは、確信を持つことができます。少年野球に関わることによって良い習慣を身に付け、体力を向上させ、精神力を強め、技術を高め、さらに続ける能力を育んで・・・こうして培われた能力を基礎・基本として、中学生、高校生、大学生、さらに社会人のレギュラー目指して頑張って

ほしいと思います。

三十年前の子どもは、もう四十歳を超えました。その子がまた野球教室に入部しています。微笑ましくもあり、大変羨ましい限りです。卒業した子どもたちと話をする機会がありますが、子どもの頃、少年野球を夢中でやったことを良き思い出としていることは、間違い有りません。

## (三) 純白のユニホーム・・・素直に無心で

「白」のユニホームは、昭和五十一年布施会長の時に推薦出場でラジオ関東の県大会に出場することになり寄付を募り、二十着作成しました。白のユニホームには、純白の心で無心にならばという願いが込められています。題字の「礼儀・廉恥」の廉恥には、こうした意味があります。

本大会は、一回戦で敗れましたが、エキジビションマッチで、横浜市の優勝チームに五―四でサヨナラ勝ちをしたのは、良い思い出で大きな自信となりました。

## (四) 成瀬少年野球教室の歌・・・

いつまでも円陣君で心に刻んで  
「燃える太陽に向って走る、あこがれのユニホーム心がおどる」という、この歌の作詞作曲者は、樋口英子さんです。目片顧問の奥様で大変お世話になっております。若い頃、NHKの「あなたのメロディ」に出場したことがあるそうで、創立一〇周年の時、「野球教室の歌を作ってくださいませんか。」と無理にお願いしたところ快く引き受けていただきました



した。

「歌詞」と「曲」がすらすら溢れ出てきて成瀬少年野球教室の歌ができあがったそうです。ランニングしながら歌ったり、優勝したときに歌ったり、今後いつまでも歌い継がれていくことを願っています。

#### (五) 友好対戦チーム・・・いつまでもライバルで

これまでに多くのチームと試合を行ってきました。勝敗は、「時の運」と言われますが、やはり試合に勝った時は、気持ちも良く疲れもふっ飛んでしましますが、敗れた時には、心も身体もずっしりと重くなります。きっと、子どもも応援団も同じ気持ちではないでしょうか。負け続けていた頃は、どうしたら勝てるのか、何をすれば良いのか：日々工夫したり悩んだりしたものです。

勝ち続けている時には、相手の選手の状態を考えず有頂天になっていたこともあったのかも知れません。このような時、「実るほど頭を垂れる稲穂かな。」とか「勝って兜の緒を締めよ。」などの諺を噛み締めることもありました。

しかし、近頃は、勝っても負けても「自然あふれるグラウンドで、健康で一日元気良く過ごせたことに感謝しよう。」と子どもたちに言い聞かせています。

さて、一年間に八〇試合をしたとして、



三十年で約二四〇〇試合のゲームを観戦したことになります。これまでの思い出に残るゲームのベストテンは次の通りです。

#### ①昭和五十六年「東京新聞杯県大会決勝戦」

横浜スタジアムに父と母を呼び、ミニバスケットの仲間が成瀬小学校の校歌を歌って応援してくれる中で、ウイニングボールを細野君が捕球し優勝したこと。相手は横浜市戸塚区代表。

#### ②昭和六十二年「県大会決勝戦」

神奈川県で開催される全国大会への出場を決めた試合。藤沢市代表に三対二の接戦でした。

#### ③昭和五十七年「伊勢原市卒業生大会決勝戦」

同点で迎えた最終回、原田君の投げたボールをスクイズされ、ボールが一塁白線上で止まってさよなら負けをしたこと。

#### ④昭和六十二年「全日本学童軟式野球大会1回戦」

山口県代表チームに、スクイズをはずされ、3塁本塁間で挟殺されたこと、延長戦が一对三で敗れたこと。

#### ④平成三年「スポーツ少年団関東大会準決勝」

茨城県代表に四―八とリードされましたが、最終回四点差を追い上げ、あと一点差まで詰め寄って全精力を出し切ったこと。

#### ⑤平成二年「黒潮大会全国学童軟式野球大会一回戦」

和歌山県まで遠征し、九州佐賀県代表のチームと戦い、前半リードしたものの後半に逆転を許したこと相手の粘り強さに驚いたこと。

⑥平成13年「スポーツ少年団県大会決勝戦」

小田原市代表と戦い、二対〇でリードし、四回裏ノーアウト満塁で投手を小川君に代え、相手の攻撃を〇点に押さえ、埼玉県で行われる関東大会への出場が決めた。

⑦昭和五十七年「伊勢原市卒業生大会決勝戦」

肘痛で六ヶ月ボールを握れず手伝いを繰り返していた選手が小学生最後の場面でさよならヒットを打ったこと。（後に高校野球夏の大会で選手宣誓を行う。）

⑧平成五年「県央県北八市二郡大会準決勝戦」

秦野市代表チームと戦い、三対二でリードした最終回ツアウトからさよなら負け。

⑨平成十一年「伊勢原市卒業生大会決勝戦」

三対五とリードされた最終回、田中君がさよならランニングスリーランホームラン。

⑩平成十五年「伊勢原市卒業生大会決勝戦」

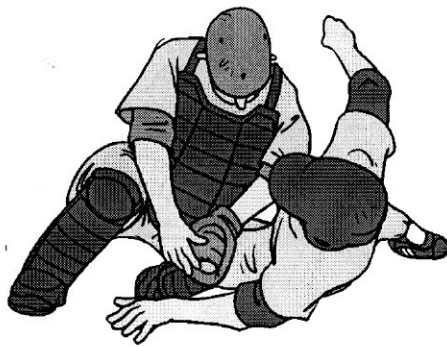
一対〇とリードした四回ノーアウト満塁のピンチを〇点に押さえ、最終戦で初優勝。

いずれにしても、幾多の特徴あるチームと印象に残る試合をし、交流することができたことに感謝しつつ、今後も長いお付き合いをお願いしたいと思います。

#### (六) 指導者・・・熱い心で少年野球に打ち込んで

「目片コーチ」は、昭和五十三年〜平成元年の約十二年間成瀬少年野球教室のコーチをして下さいました。熱心に納得いくまで子どもの指導をしてくれました。雷がごろごろ鳴っ

て土砂降りの大雨の中で荻野リバスと試合をしたことを思い出します。また、運動会終了後の試合もありました。目片コーチは、私の野球の進め方や考え方を理解して下さいました。切な方です。もつと言えば人生の生き方についての示唆を与えてくれた方です。家族ぐるみの付き合いの中で、雄大の誕生に際しては「兜」をいただいたり、伊勢原球場の柿落しの時には、お嬢様と真理紗で巨人と横浜の2軍監督それぞれに花束を渡す役をいただいたり、大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。



現在は、硬式野球ボーイズクラブ「伊勢原ウィーズ」の代表としてチームの運営をされています。このチームからは、県内の私学や強豪の公立高校、また県外の私学のチームに入部し、甲子園や全国規模の目標の高い野球を目指してがんばっている選手がいます。私も心より応援しています。

「須田コーチ」は、何と言っても、昭和六十二年の県大会で準優勝し和歌山県で開催された全国黒潮大会に出かけたことが最高の思い出です。昭和五十三年〜平成十二年まで二十年間近くコーチとして面倒をみて頂きました。自らも、プレーヤーとして多くの大会に参加され、活躍されています。

「春田コーチ」は、昭和五十四年〜平成十四年までコーチと

して子どもたちの面倒をみて下さいました。須田コーチと同じ職場に勤められ、子どもたちから大変人気があり長い間子どもたちの面倒をみて下さいました。

### (七) 後援会の保護者・応援団・・・

子育ては、ワンチャンス  
毎週、毎週愛しいお子様の弁当づくり、ユニホームの洗濯、日日の連絡等、日ごろの後援活動に感謝しております。丹精こめて育てられた子ども達は、きっと立派な成人に成長して保護者の皆様に恩返しをしてくれることと思います。

時には、卒業生の結婚式に呼ばれることがあります。小学生の頃のこなどすっかり忘れているのでは、と思うこともあります。本人の話聞きますと大変懐かしいことだらうのです。また、結婚して：〇〇



に住んでいます。子ども産まれました。：などと手紙をいただくこともあります。元気で頑張っていることを本当に嬉しく思います。

小学校に勤めておられますと、子どもの母親との会話多いのですが、少年野球のおかげで多くの父親と知り合うことができました。父親の考えと母親の考えは異なってもよいわけですが、子育てについては、お互い十分話し合っしてほしいと思います。

ある時「監督のやり方が悪いから負けるんだ。」と一喝されたこともありましたが今は、良き思い出です。私に気合いを入れてくださったその方の息子さんは、県大会の後の野球教室で、元プロ野球の千葉茂さんに、「君の投げ方は、すばらしいよ。」とお誉め頂いたことを思い出します。

歴代の会長さんはじめ、保護者の皆さんとの出会いは、私にとつて宝物です。多くの財産となりました。こうした出会いは、これからも大事にしていきたいと思っています。会社、警察、市役所、バスやトラックの運転、料理店、工務



店、技術者、農協、銀行、農家、議員、

：いろいろな方々と接し、野球のこと、子どものこと、仕事のこと：ファミリリーのことなど話しました。ファミリリーの出身地などの話題になりますと南は九州から北は北海道まで日本全国との関わりがあるに驚きます。まさに全国大会をしているようです。こうし

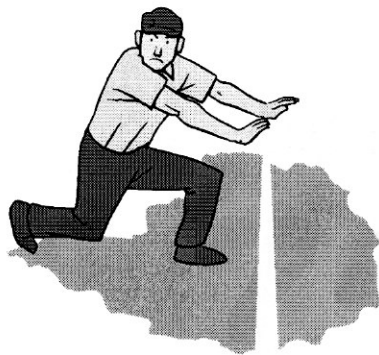
た皆さんとの出会いをこれからも大切に育てていきたいと思っております。成瀬少年野球教室は、日本一のチームと自負することが出来ます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。こうした皆さんの熱い思いが独自の活動を創り出してききました。

「成瀬少年野球教室親善招待大会」は、まだ、大会が少なかった頃、成瀬のコーチと保護者で、自分たちでチームを集めて大会を開けば：という意見から昭和五十三年に「第一



回成瀬少年野球教室親善招待大会」が実施されました。今回で二十五回を数えます。「団旗」は、えんじに白抜きで作られ、成瀬のシンボルカラーとなっています。「横断旗」は、「打て、守れ、走れ成瀬少年野球教室」と記され県大会に出場する時に、後援会が作成してくださいました。「練習グラウンド」は、成瀬小学校の交通安全広場から始まり、今では、石田小学校、上落合広場、長沼公園など後援会の熱意によって確保されています。

「大山登山」は、毎年一月三日に「必勝祈願」のために「大山」に登ります。昭和五十三年度の三浦会長が企画してくださったのが初めてです。それまでは、近くの神社に行っていました。登山の好きな会長さんが快く引き受けてくださいました。初めての時は、「大雪」でやっとのことで登りました。次は、日本一の富士山に登ることを夢見ています。



#### (八) 成瀬少年野球教室OB会・・・いつまでも親睦を

「成瀬少年野球教室OB会」は、創立十周年の時に、結成されました。布施会長、細野会長には、大変お世話になっております。現役の後援会のバックアップというよりも、卒業した保護者の楽しみという感じです。総会や花見の会、現役との親睦会などを行っています。また、三十周年のような記

念事業の時には、強力なバックアップをしていただいております。このOB会と並んで「成小野球ゴルフ会」もできました。創立二十周年を迎えた後、ゴルフの好きな保護者が卒業後も楽しもうということで、年に何回かコンペが実施されています。いざという時に頼りになる心強いOBの皆様です。

#### (九) お世話になった方々・・・いつまでもお元気で

大村利夫先生には、団体の在り方や保険のことなど公私にわたりご指導いただきました。大津慶治先生には、成瀬自主クラブの仲間と共にいろいろご迷惑をおかけしました。小泉三郎先生は、新人戦の県大会のおり、子どもたちに声をかけて下さり握手して激励してくれました。桐生金三先生は、講演に来て下さり、大リーグのベーブブリスが来日し、横浜平和球場まで自転車で観戦に出かけたことやY校での高等学校生活など、自らの体験を熱心にお話してくださいました。西村学童部理事長は、県大会に参加するといつも気にかけて下さいました。成瀬ミニバスケットボールの椎野先生、成瀬サッカー少年団の高原先生・安部先生、成瀬少女バレーボール部の高橋先生・徳永先生、成瀬少女合唱団の浦野先生・吉田先生には、成瀬小学校の先輩また同僚としてご指導いただき、共に子どもたちの成長を楽しみに活動してきました。お互いに刺激を得てこれまで続けることができました。アドバイスをいただいたり、叱咤激励をいただいたり、陰になり日向になり、大変お世話になったことに対し深く感謝いたします。本当に有難うございました。

新任時代に野球教室設立にご理解をいただきました守屋勇蔵先生、小泉賢三先生、学童部創立に際しお骨折りをいただきました能条斐雄先生、県大会出場の折に様々なご指導をいただきました前学童部理事長須田富美夫様には、心よりご冥福を申し上げます。

### ○むすびに

最近、「稽古とは、一より習い十を知り、十より帰るものとその一」という言葉を聞きました。なるほどと思いますが、先人達は、物事の道理を昔から伝えてきたようです。

道元禅師は、「両辺を汚すこと無かれ」とトイレを修行の場としたそうです。：明治大学の島岡監督は四年生にトイレ清掃をさせたと聞きます。野球技術の向上は勿論大切に思いますが、人を思いやる、物を大切に、挨拶をする：人間として当たり前のことが当たり前にできない状況があることに気づきます。



家庭でやることと学校でやることと地域でやることの線引きをせず、いつでもどこでも当たり前のことが当たり前にできるようにになると良いのではないのでしょうか。

神奈川県総合教育センターの入り口に「心して育てよ日本の子どもらを」の碑文があります。私は、少年野球との関わりを通じて少しでも子どもたちの健全育成に参加したい

と思っています。

終わりにりましたが、成瀬少年野球教室に関わりをもっていたいただきました多くの皆様に深く感謝申し上げます三十年記念の記しとさせていただきます。

### 渡辺監督の練習方法

基礎的・基本的な行き方の元を身につけることが生きる力となっていくことと思います。

学問を教えながらあまり真面目にがんばること。好きならば長く続けられること。少しでも多く・・・  
たかが野球されど野球  
雄飛雌伏

一球入魂 和顔愛語 喜怒哀楽 四面楚歌 背水の陣

礼儀廉恥(れいぎれんち)

廉恥 (廉潔で、恥を知る心のあること)

廉潔 (清廉で潔白なこと)

清廉 (心が清くて私欲のないこと。廉潔。)

潔白 (①清潔で純白なこと。まっしろ。②いさぎよくこころのけがれていないこと。③不正の行為のないこと。うしろぐらいことのないこと。私欲(自分だけの利益をむさぼろうとする心。)